「カネ部門」総合評価報告書

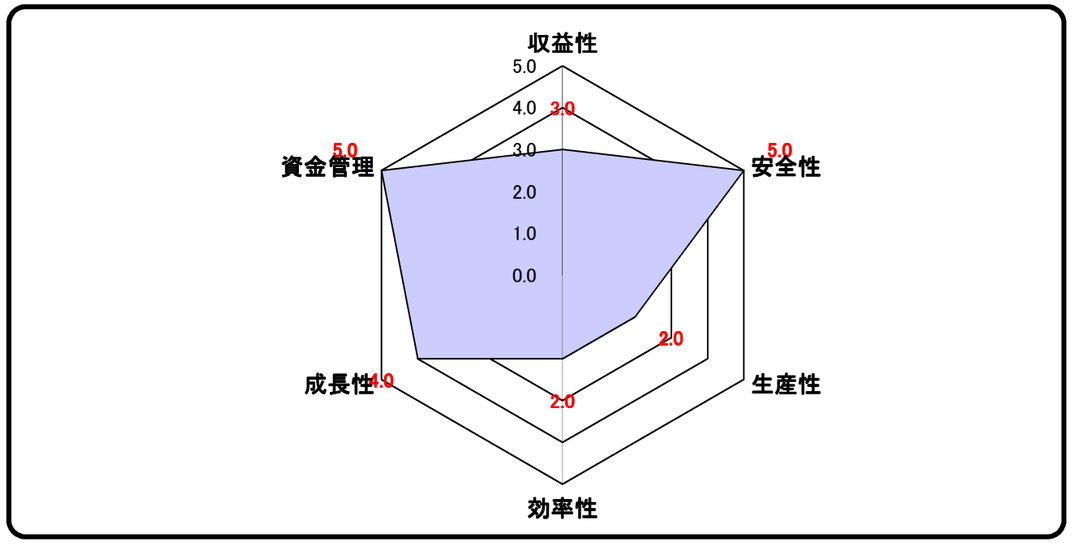
製造業

評価結果

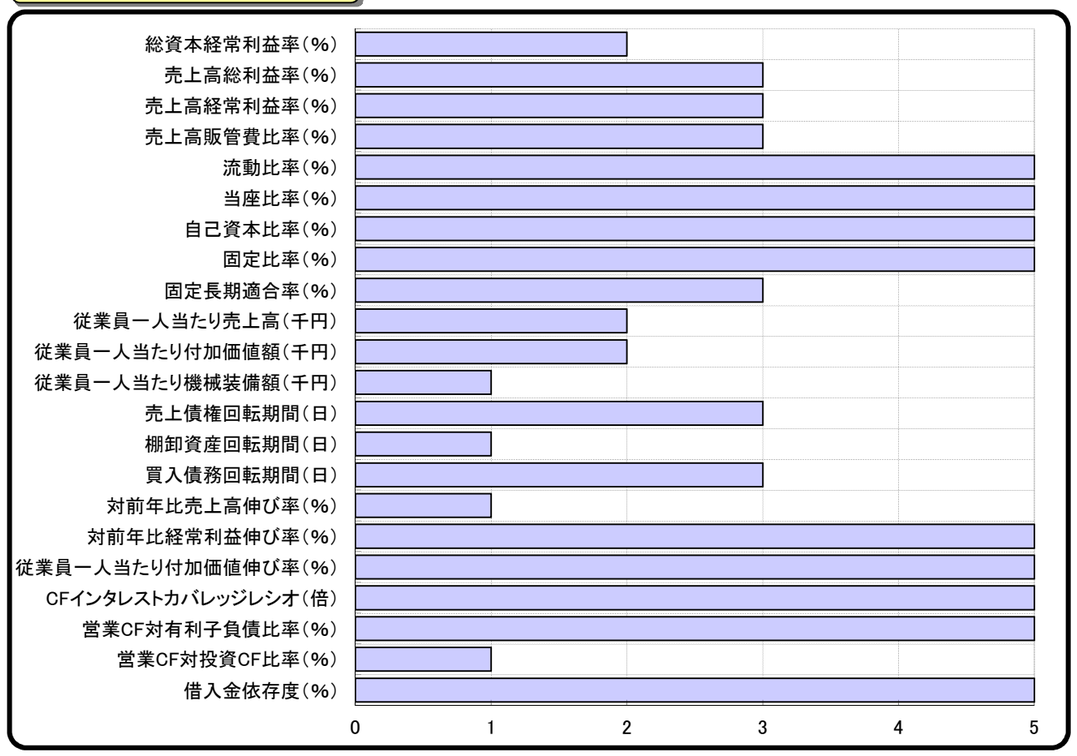
定量分析（比率分析）				
評価指標		点数	コメント	レベル
収益性	**総資本経常利益率（%）**	2	①総資本経常利益率が低い⇒資産の投資効率が悪い（現預金及び自社不動産の保有が大きい） ②売上高利益率が高い⇒製造・仕入原価が低いと考えられます 収益面からは特に問題があるとは思われませんが、ニッチ分野の製品を製造販売していることを考えると、コスト管理を行うなど、より一層の収益力の向上に努めることが望まれます	3
	売上高総利益率（%）	3		
	売上高経常利益率（%）	3		
	売上高販管費比率（%）	3		
安全性	**流動比率（%）**	5	現預金が潤沢にあり、無借金経営であることから、安全性に関する各比率はかなり優良となっています	5
	当座比率（%）	5		
	自己資本比率（%）	5		
	固定比率（%）	5		
	固定長期適合率（%）	3		
生産性	**従業員一人当たり売上高（千円）**	2	生産性に関する比率は、全般的に業界平均値を下回っています 特に、従業員1人当たり機械装備が大きく下回っています。他の項目（従業員1人当たり売上高、従業員1人当たり付加価値額）も業界平均値を下回っていることから判断すると、従業員数が多いと言わざるを得ず、生産性の向上に向けて何らかの対策が必要であると思われます	2
	従業員一人当たり付加価値額（千円）	2		
	従業員一人当たり機械装備額（千円）	1		
効率性	**売上債権回転期間（日）**	3	棚卸資産回転期間が業界平均値を大きく下回っています。当社はニッチ分野で特殊なXXXを生産しているとは言え、受注生産が基本であることを踏まえると、在庫管理の徹底が望まれます	2
	棚卸資産回転期間（日）	1		
	買入債務回転期間（日）	3		
成長性	**対前年比売上高伸び率（%）**	1	平成2X年度は業績が大きく低迷しており、平成2X年度の成長性は業界平均値を大きく上回る水準となっています。対前年度経常利益率及び従業員一人当たり付加価値伸び率は大きく伸ばしている反面、売上高の伸び率は前年度を下回っています。これは、為替損益による貢献が大きかったものと思われることから、売上高向上に向けた対策が必要だと思われます	4
	対前年比経常利益伸び率（%）	5		
	従業員一人当たり付加価値伸び率（%）	5		
資金管理	CFインタレストカバレッジレシオ（倍）	5	無借金経営であることから資金管理に関しては問題はありません なお、営業CF対投資CF比率の低下については、土地購入（工場用地）によるもので、一時的なものであることから問題はありません	5
	営業CF対有利子負債比率（%）	5		
	営業CF対投資CF比率（%）	1		
	借入金依存度（%）	5		

注：評価指標の太字は重点評価項目です。点数、レベルは（1～5）までの5段階で記載しています。

戦略項目のバランス



評価指標の比較



「カネ部門」総合評価報告書

定性分析

科目			チェック	コメント	評価
財務の健全性	資産	売上債権		棚卸資産が業界と比べて大きい 平成2X年度は資産の約XX%と高い	優良
		棚卸資産	✓		
		貸付金			
		仮払金・立替金			
		有形固定資産			✓ 良好
		投資有価証券			
		繰り延べ資産			普通
	負債	買掛金		無借金経営であり、退職給付引当金、製品保証引当金などの負債性引当金についても適正に計上されている	やや問題あり
		支払手形			
		未払金			
		借入金	✓		問題あり
財務の体力度		役員報酬	✓	上場企業であるが、非上場企業並みに厚い	十分
		法定福利費・福利厚生費			
		貸倒引当金・貸倒損失処理			✓ やや十分
		減価償却実施額			
		純資産			普通
		借入金月商倍率			
		債務償還能力			やや不十分
		地代・家賃			
					不十分

備考：色付き部分（定量分析評価、総合評価、バランス配分による評価、カネ部門総合評価を入力してください。
コメント欄は、科目のチェック区分に応じて記載しています。

分析項目別評価並びに総合評価

バランス配分によるコメント
無借金経営であることもあり、資金管理、安全性は全く問題はありません
成長性、収益性についても、自動車業界の景気回復から、収益が拡大基調にあり標準的な水準となっています
一方、効率性、生産性については、業界平均を下回っており何らかの対策が必要であると思われます。
効率性では、棚卸資産の見直し、生産性では、人件費を中心とした固定費について見直しが必要であると思われます。

定量分析評価	（1～5を選択してください） ⇒	4	良好な水準です

定性分析評価	財務の健全度	→	良好
	財務の体力度	→	やや十分

総合評価	（Ⅰ～Ⅴを選択してください） ⇒	Ⅳ	良好な水準です

カネ部門総合評価
定量分析から判断すると無借金経営であり、資金管理面、安全性は申し分ありません。
ただし、生産性、効率性は平均値を下回っており、何らかの対策が必要であると思われます。
潤沢な資金により財務的には安定していると考えられますが、棚卸資産の改善や、人件費をはじめとした固定費の削減など
生産性と効率性の改善に向けた対応が必要であると思われます
また、定性分析から判断すると棚卸資産が全資産の約30%と業界水準を上回っており、役員報酬が非上場企業並みに厚い点が
気になりますが、概ね良好な水準であると思われます。